鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第43号　H21．6．30

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目1番1号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

文理（進路）選択序論

進路指導課　秋元　達也

一年生の皆さん、入学して三ヶ月が過ぎようとしていますが、鶴丸高校の環境には慣れましたか。いよいよ文理選択について真剣に考えなければならない時期も近づいてきました。人生の進み方を決する大切な選択です。一方、二・三年生の皆さん、自らの選択に沿った学習は順調に進んでいるでしょうか。特に三年生はいよいよ勝負の夏を迎えます。全力で学習に臨み、更なる飛躍を果たしましょう。

さて、文理選択と言うと、どうしても文系と理系とが別個の世界のように認識されてしまうのですが、実はそうではなく、両者は互いに次々と繋がり合ってスパイラル（螺旋状）に上昇していくというイメージを僕は持っています。例えば、まず文系において今後あるべき社会・人間の姿が見出され、それを実現するための技術や理論、さらにはツールが理系において発明・発見され、次にはそれを用いた社会のルールが文系において確立されるとともに、そこで認識された不十分な部分を理系が補い発展させる。そして成立した社会を更にどのように発展させるべきかを文系が考察し・・・という具合です。これはあくまでも一例であり、理系が発見した自然科学の真実をベースにして文系があるべき社会を考察し・・・ということも言えます。どちらが先であるにせよ、要は常に連関しあって平和な社会を作り続けているということです。

文理選択は、自分がそのスパイラルのどの部分を担うかということを決定する、最初の機会です。ただ、皆さんが担うのは、常にそのスパイラルの最先端部分であるということを忘れてはなりません。絶対に過去は担えません。人は現在と将来しか担えないのです。そして残念なことに、その将来がどのようなものになるかについては誰も知っている人はいません。絶対的に未経験の世界です。その部分を皆さんは担うわけです。すなわち、自分で予測しなければならない。

そこで必要になるのが、将来の社会と自分の在り方を見定めようとする皆さん一人ひとりの今現在の意欲と能力になります。それを基盤とし、その上で社会の各分野（法・数学・農業・経済・政治・医学・教育・福祉等）における「歴史」と「古典」を丹念に学ぶことによって「将来の予測」は達成されるものなのです。この「歴史」「古典」を体系的かつ効率的に分割・整理しなおしたものこそ、今皆さんが高校で学んでいる各教科・科目に他なりません。皆さんの鶴丸での「現在」の学びは、社会・文化の「過去」と「将来」とを結びつける、非常に重要な役割を担っているわけです。一つも無駄はありません。それぞれの学習の中で過去の遺産（古典）やその分野の変遷（歴史）について学び、それを各自の中で総合化することで、皆さんには「将来」が見えてくるはずです。どの分野についての「将来」が見えてくるかは人それぞれ違うはずですが、違うからこそ皆さんにとってはかけがえのない指針であり、将来の社会にも役立つのです。鶴丸での学びはそのためにも最高の内容であると、僕は確信を持って言えます。

結論として、文理にしろ、そのまた先の学部・学科にしろ、選択というものは、親が言うからとか、こっちのほうが確実そうだからとかいった刹那的・打算的な観点ではなく、その時点（「現在」）で、自分がどの分野について将来の社会像を想像しやすいか、想像していて楽しいか、好きかという観点が実は大切なのではないかと思います。

前期クラスマッチ

鶴丸高校生徒会

6月11日（木）・12日（金）の両日、前期クラスマッチが行われた。大会前日までの降雨で一時は実施が危ぶまれたが、当日の午後には太陽も顔を出し、晴天の下で無事に全日程を終えることができた。サッカー・バレーボール・バスケットボール・ドッヂボール・卓球の各種目が実施され、生徒たちは皆爽やかなプレーを見せてくれた。特に、三年生は高校生活最後のクラスマッチということで各ルームとも応援にしっかりと熱が入り、各競技会場ではプレーの一つ一つに大きな歓声が上がった。一・二年生も、それぞれのルームごとに特色ある応援などを行い、それぞれのチーム内で積極的に声を掛け合うなど、各ルームの団結力を遺憾なく発揮した。翌週15日（月）には、全校朝会の中で表彰式が行われ、各学年の総合優勝ルームなどが表彰された。今回のクラスマッチを機会として、三年生は来るべき受験に向けての勢いをつけ、一・二年生は多くの級友たちとの絆を深め合いながら、共に今後の学校生活をより充実させたものにしていってもらいたい。

最後に、今回のクラスマッチの運営に尽力してくれた生徒会執行部、放送部、各ルームの体育・保健委員、試合会場の整備などを行った各体育系部活動に皆さんに心から感謝を申し上げたい。

一学年集団読書

一年生の集団読書は立花隆氏の『青春漂流』をもとに行われた。今回が初めての読書会ということで各クラスの委員長・副委員長は級友が書いた感想文をもとにしながら、入念に計画を立てて読書会に臨んだ。まず全員が書いた感想文の中から優秀作品が放送され、その後各クラスごとに、グループを作り討議の柱となるテーマに沿った話し合いがなされた。

今回の『青春漂流』では、十一名の様々な職業に就いている人々の考え方・生き方が紹介されており、中には「鷹匠」や「猿まわし調教師」などという普段耳にしない職業の人々も含まれていた。そういった人々の「不安や迷い」「挫折」「人生の大決断」などから、強い感動や深い共感などを得ることができたのではないか。また、それらを級友と議論しあう中で、これからの青春そして人生をいかに歩んでいくか大きな示唆を与えられたのではないだろうか。

一年生にとっては初めての集団読書であったが、とても貴重な機会となり、まさに一人一人の「心の栄養」となったように思う。

中高連絡会

6月10日(水)、本校文化館で中高連絡会が開かれた。この会は、中学校と本校の連携を深めることを目的に毎年実施されている。今年度も三十九の中学校から先生方が出席され、本校の学校紹介のビデオを視聴した後、校長挨拶、平成二十一年度の入学者選抜学力検査の概要、本校の学習・進路指導についての説明と続いた。その後、各中学校と本校職員との懇談の機会があり、中学校側から卒業生の進路や在校生の近況についての質問等が多く寄せられた。

新生徒会執行部発足

6月1日(月)に行われた生徒朝会での引き継ぎ式を以て、山下美菜子会長率いる平成二十年度後期生徒会執行部から平成二十一年度前期生徒会執行部に引き継がれた。新生徒会執行部役員は次の通り。（紙面の都合により会長・副会長のみの紹介とする。）

会　長　放生會雄地（21R）
副会長　吉永　真愛（23R）
副会長　姫木祐太郎（14R）

新生徒会執行部は、これから学校をリードしていく二年生はもとより、入学して三ヵ月の一年生も多く、三年生が引退した今、初々しくも頼もしい顔ぶれとなっている。生徒会を中心に、生徒全員で新しい鶴丸を築いていきましょう。

保健講話

6月24日(水)、上片平産婦人科院長の上片平昭二先生を講師にお迎えし、「私たちのまわりの性について考える」という演題で平成二十一年度の保健講話が行われた。

先生は、性感染症の具体例を挙げながら、学生の感染率が最も高いことや、そのリスクの高さについて訴えられ、また、生命の尊さを真剣に考えてほしいと、実際の中絶の様子を記録した映像を見せて下さった。

さらに、男脳・女脳・右脳派・左脳派のどれに該当するかというゲームで楽しんだ後、脳科学の視点からも男女の考え方や行動の違いを指摘され、互いを理解し合うことの大切さを教えて下さった。

鶴丸OBでもある先生は、最後に、「知識は自分を守るための鎧。ただし、どんなに素晴らしい鎧でも、中身（人間性）が備わっていないと意味がない。」と、バランスのとれた人間になってほしいというエールを、後輩達に送って下さった。

正しい知識を身につけ、互いの違いを認め合い、尊重し合う。それが相手を大切にすることであり、また、自分を大切にすることにも繋がるだろう。上片平先生のお話から学んだことを自分の中に取り入れ、日々の生活の中で意識していこう。

７月の行事予定

		7　月
1	水	
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	**1・2年実力考査（1日目）**
7	火	**1・2年実力考査（2日目）**
8	水	
9	木	**月曜の授業**
10	金	中掃除 学校安全の日
11	土	1～3年進研記述
12	日	3年進研記述 第1回英検二次試験
13	月	全校朝会 修学旅行結団式
14	火	2年修学旅行
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	**代ゼミ東大プレ**
19	日	代ゼミ東大プレ
20	月	海の日
21	火	夏季悠学講座開始（～8/3）
22	水	夏季休業日
23	木	
24	金	
25	土	悠学講座②
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	中学生日帰り体験学習
31	金	夏季悠学講座終了（1・2年） 中学生日帰り体験学習